

2023 年特集「令和の分析化学教育」企画書

(公社) 日本分析化学会「ぶんせき」誌編集委員会

令和の時代を迎えた現在では分析機器が高度に発達しており、産業分野をはじめ実社会を支える基盤として広く活用されています。高度化した分析機器を真に使いこなして有用な結果を得るためには、分析化学の基本原則を理解し、分析の基本技能を習得することが必須です。そのため、機器のブラックボックス化や高度化が進めば進むほど、基礎を身につけるための「分析化学教育」の重要性がますます高まると考えます。

一方で、昨今では IT 化やオンライン技術の発展、また急速な少子化の影響などにより、大学をはじめ教育機関の在り方や教育手法が急速に変遷しています。時代に即して変化を重ねながらも、先人によって築かれてきた分析化学を伝承し、さらなる発展と進化につなげていくことも私たちの重要な課題と考えます。

以上を踏まえ、本特集では「令和の分析化学教育」と題して、分析（化学）の教育や技能伝承に関する最近の事例や取り組みについて多方面からご紹介いただき、教育や指導に携わる会員各位にとりまして役立つ内容にしたいと考えております。必ずしも最新の内容でなくても、考え方や手法が特徴的であり、現に今も実践されている内容であれば歓迎いたします。

執筆者各位におかれましては、ご多忙のところ恐縮ではありますが、本企画の趣旨を踏まえてご協力くださいますようお願い申し上げます。

イメージ：

1) 最近の大学や高専における分析化学の講義の事例

例：講義でどんな点に気を配っているか、講義の分かりやすさや学生の興味を引くための工夫
コロナ禍においてリモートと相性の悪い実験系の教育を現場で進めるための工夫
分析化学の講義・実習が他の領域科目とは異なる点、または分析化学ならではの特徴

2) 各機関における分析（化学）教育や技能伝承に対する取り組み

例：高校や専門学校、小中学校（分析化学に関わる理科教育の事例）などの教育機関
企業（研修や勉強会などの事例）
研究機関、行政機関（部署内の研修や市民講座の事例）
分析関連資格（環境計量士・作業環境測定士など）の講習内容の紹介

※記事の長さは 1 件あたり 4,000 字程度（2 頁）を基準、最大で ～8,000 字程度（～4 頁）とする。

図表・写真（500 字相当/枚とする）を含めてもよい。

※大学や研究機関だけでなく、ふだん話をうかがう機会の少ない小中高校ならびに専門学校、さらに企業や公的機関も含めて、教育に関わる方々に広く原稿募集する（15 件程度を目標、最大 20 件までとする）。

※あまりにも類似した内容が重複しないように、執筆依頼時に小委員会で調整する。

スケジュール

2023 年 4 月中 当企画小委員長より、内諾者に正式執筆依頼（脱稿期限：依頼後 3 ヶ月程度）

7 月 31 日 脱稿期限

8 月 閲読・校正

9 月 20 日 各原稿の校正完了

11 月号 掲載

以上